

Tokai Fubokon Letter

高2 懇後 OB インタビュー

3月12日(土)の高2学年懇談会后に、OBのお二人にインタビューを行いました。そこで合格報告に来ていた、同級生の浅野君にもお話を聞くことができました。今回は会話形式でその様子をお届けします。

西尾彰紘君

京都大学医学部1年
オーケストラ部部长 (チェロ)
岐阜県瑞浪市出身



永井光洋君

京都大学教育学部1年
英語の添削では職員室の環境をフル活用

浅井哲進(あきゆき)君

京都大学文学部に合格
1年間予備校で浪人を経験



発表の経緯/発表してみてどうだったか?

西:杉浦先生から声がかかり、僕で良ければという感じで。準備をしっかりはしてなくて、今朝慌てて話す内容を少しだけPCでまとめた。すごくメモをとってる方がいて…

永:メモするに値することを喋らなくてはいけないな、って思った。演台では一年前の卒業式で答辞を読んだので、懐かしいな、と。意外と皆さんが笑ってくださったのが良かった。

西:対照的に僕はすごく固い話になっちゃって(笑)

永:そのおかげで僕は自由になんでもできるな、って。大好きなクラシック音楽を封印した、というのは受験への決意?

西:4月の最終公演で部活を締めた。それまでは電車の中でクラシックを携帯で聴いていたが、長時間になってしまう。楽器も毎日練習していたが、それもやめた。自分なりに受験への切り替えとして決めたこと。最初は楽器を弾かないことも辛かったが、だんだん慣れた。その分、6月から学校が再開した際には、友達と話すことでリフレッシュを図っていた。

SNSや友達との会話でリラックスする時は、どんな話をするもの?

西:学校では勉強の話は少しはするけど、サッカーどうだった?とか、他愛のない話が多かった。

塾へはいつから?

西:高2の3月から前倒して英語は元東海教員の先生の個別の塾に。

基礎を徹底的にしたというのは、自分に足りていないと感じたから?

西:高2までの段階で、数学は定期・実力考査に向けて青チャートを2~3回解いたこともあった。塾の先生の影響もあって、もう一回青チャートを時間をかけずに、高2の3月の1ヶ月で数I、数II・B、数IIIの3冊(あまりに簡単な問題は飛ばして)重要例題などを完璧に解けるようにした。休校期間だったので家で。

高1・高2で東大、京大のオープンキャンパスへ。何が決め手で京大へ?

西:東大には進振り(進学選択)制度によって、2年の前期までの一般教養の成績次第でその後の進路が分かれるため、案外勉強に忙しい。京大は最初から医学部で進路が決まっている分、学生生活を楽しむことができ、校風も自由。自分には合っていると思った。直に行ってみたことが決め手になった。

模試の結果から強化する部分を月単位で考え、そこから日割りして達成していく方法はどこから?

西:自分で考えて。模試では割と結果を出していたが、振るわない時もあった。そのためにどれだけの量を勉

強するかを長期的に計画を立てて、それまでに参考書・問題集のどれだけをやるかをあらかじめ決めていく。本番までの道筋を立てていった。

参考書の決め方

西:先生というよりかは、情報化社会なんで、同じ京大・医や東大理Ⅲ志望の人が Twitter 上にいて、自分が勝手にライバルと思っている相手がどんな参考書を使っているかの情報を得ていた。でもその情報を鵜呑みにせず、実際に本屋で見ても精査して決めていた。自室の机は問題集が山積みだが最も集中できる場所。東海では珍しいタイプだと思う。

お母様との関係

西:どちらかという話したい時は話す、ような。永井くんのお母さんとも似ていて、成績のことはあまり聞いてこない。自分から言いたい時だけ。うまくバランスをとっていた。

教員養成ではない教育学部、何を学ぼうと思って？

永:今「教師のバトン」が Twitter で盛り上がりつつありますが、労働上の問題とか、知り合いの公立高校の教員は転職によって学校のレベルが落ちてすごく愚痴っている。例えば赤点を取ると留年になる生徒には、教員としては赤点を取らせたくないのに、留年のかかった期末試験に学校に来ないから電話すると、「友達と外国にいる」とか。想像を超える話。その子たちは悪気があってやっているかっていうと、そうではないような気がする。義務教育からはずれているとはいえ、勉強が好き嫌いに関わらず高校に行かないといけない世間の流れ、圧力みたいなものがあるから、こうした状況が生まれてしまうのかも。先生側もやる気のない生徒に教えるのは苦痛。生徒も先生の話が聞きたいかっていうとそうでもないし、ルーズルーズの関係。そういう現状を肌で体感したことがあり、そういうことを改善、と言うとおこがましいですが、携わることができるようなになればいいと思って京大教育学部を志望。自分もオープンキャンパスに行って、良さそうだと感じた。実は京都って学びやすい土地柄だなと思って、名古屋・東京に比べゆったりした感じもあり、学生の街であり、せわしなくなくだらかな時が流れている感じがある。学生生活を送るなら京都がいいと思った。

自分の感覚で京大に決めて良かったと今思う？

西:東大に行った友人の話から、入ってからも結構成績が関わってくるのを聞くと、勉強に追われず、サークル活動、友人作り、京都観光など自由にゆっくり学生生活を送れて良かったと思っている。

学校見学では、学校だけでなく、街の雰囲気なども参考にするといい？

西:僕が見学したところでは、東京は人も多くてせわしない。対照的に京都はゆったり、バスも遅延する。

今は大学で学びたいことが学べてる？

永:大学はどこもそうだと思うけれど、大学の中には図書館がたくさんあって、蔵書もたくさんある。背表紙をみただけで読みたくなるような、知りたいことが勉強できる環境に満足している。

京都大学の3つのキャンパス、下宿先は？

西:医学部は時計台で有名な吉田キャンパスのすぐ南にあり、6年間引っ越しはない。工学部だと一部3回生から4回生の間で桂キャンパスに移るため引っ越しこともある。

コロナでの授業はリモートが多い？対面が多い？

永:対面もあり、状況によってリモートに。来年度からは京都大学は原則対面、という通達が出ている。旧帝大の中では一番対面を推す大学だと先生方が言っている。

下宿先というのは豊富なもの？

永:豊富だけれども、人気の物件というのはある。詳しく話すと入学準備センターというのが2月10日ごろにオープン。保護者の行列ができる。タッチの差。電話の早さとか。

浅:僕は外部の不動産会社。出願後すぐ、受ける前には決まっていた。いい物件は京大生が学年が上がる時の住み替えで埋まってしまう。受かる前の受験生というのはあまりいい物件を取らせてもらえない。その限られた物件というのが先に動いた人がとっていく。

西:僕は合格後に。

永:3月の10日の合格発表後にキャンセルが出るため、直で行けば選べると思う。

当日のホテルの予約はいつ頃？

永:9月ごろ、残り1室だったと親が言っていた。キャンセルもできるし、夏から秋に、お早めに。

答辞の言葉「自分が向く方向が前になる」の由来

永:J—POP の歌詞だと思うけど…。みんな、決められた前を目指しがちな気がして。共通認識にある「ここが前」というものがあって、それを目指すというよりは、自分の興味に応じて「自分が選択したものが前になる」という認識をした方が、より良い受験生活になると思った。

同窓会誌「東海」に答辞が初掲載

伊東先生:コロナになり、校長が許可したので、これからは毎掲載しますよ。

永:結構父母受けが良かったと聞いています。

一浪した理由は? どうしてもここに行きたかったから? これ以上妥協はしたくなかったから?

浅:どっちもある。現役の時は同志社と京都大学だけ。同志社は受かっていたけど、京都が落ちた時点で浪人を覚悟。同志社では…というのも少しはあるのだけれど、京都大学への執着があった。それは言葉にしがたくて、曖昧な気持ち。親には迷惑をかけた。

浪人生活はどうでした?辛いもの?

浅:それが意外としんどくなかった。予備校には東海の友達もいたっていうのが大きかった。浪人生でも友達と遊ぶこともあったし、勉強する時にも友達と一緒にの方がいいタイプ。一人だと結構怠惰な人間なんで(笑)。外でみんなで勉強しようか、っていう時もあった。東海の時にもテスト勉強を友達と一緒にやっていて、それと同じ感じ。

私立は合格、でも浪人することに親御さんの反応は?

浅:特に何も。一年なら許す、って。

救いになった言葉などはあった?

浅:言葉をかけてもらうというよりは、みんなそうだと思っけど、一定の距離感を保ってもらった方がいい。ある程度干渉せずにいるもらえる、必要な時だけ、が良い。自分で自分のことを受け止める時間と、親と対話する時間の両方が確保できる距離感が保っていたのが良かった。予備校が始まる前の3月の間でも、

そんなにしんどくなく過ごせた。下手に慰められたりしても落ちたものはしょうがないから、自分の機嫌は自分で取るというか。それが一番楽。

文学部の就職、目指している職業はある?

浅:なくて…それはちょっと親にも言われて、「お前、就職どうするんだ?」って最初は言われた。勉強したいのが社会学で、京大だと文学部になる。自分の勉強したいことを優先して文学部に。東海の校風のようなところが京都大学にもあって、それが京大の魅力。母親にここには踏み込んでほしくない、ってところはある?携帯の制限とか、TV・ゲーム、趣味の時間とか。

西:僕のところはそんなになかった。自分である程度決めていた。確かに共通テスト前の12月とか、共通テスト後に YouTube とか見てドラドラしてしまった時もある。でも親がこうしろあしろとか、携帯触るなとか、趣味に干渉するとかはなかったし、あまり嫌だったことはなかった。

ご飯が自分だけ一品多いとか?(栄養をつけなさい、って話を聞くので)平常がいい?

西:そういうことはなかったし、僕は親が作ってくれたものを食べたいものを食べる、って感じ。受験生だから増えるのかもなかった。

浅:生活の面では、受験期も浪人してからも、変わらず日常を過ごすのがいいと思う。



編集後記

偶然にも京大の3人のお話でしたが、彼らが決して特別なことをしているわけではないことが分かり、地元を離れて受験する方にとっても参考になるお話でした。浅野君のお母様からは「内心引きつりながらニコニコと見守るしかない」とのコメント。私も森を彷徨う息子を大きく、温かく見守っていこうと思います。